

第3回 第2次神崎市総合計画審議会 議事録

-
- 日時：2017年11月20日（月）15:00～17:00
 - 場所：神崎市中央公民館 第1研修室
 - 参加者：（敬称略）
 - 【委員】 芦原、姉川、佐藤、野副、西原、吉原、副島、内村、平島、岸川、古賀（俊）、中島、柳川、山田
 - 【事務局（企画課）】 宮地、鶴、篠木
 - 【ランドブレイン】 岩切、吉山 [記]
 - 欠席者：（敬称略）
 - 【委員】 江頭、山本、古賀（義）、福山
 - 内容：
 1. 開会
 2. 会長あいさつ
 3. 議題
 - （1）市民意識調査（アンケート）報告書及び市民WSニュースについて
 - （2）第2次神崎市総合計画～基本構想～（案）
 4. その他
 5. 閉会

（以下議事録、敬称略）

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 議題

● 事務局から前回会議の質問回答及び議題についての説明

（事務局）※前回会議の質問回答

平成29年度の神崎市の財政状況について。約165億円に対し、福祉事業が含まれる民生費は当初予算で約34%、補正後は約30%となっている。

（1）市民意識調査（アンケート）報告書及び市民WSニュースについて

（委員）

ワークショップは2回参加したが、若い世代も多くいたように見えた。年代の集計は取っているか。若手職員が多く参加しており、自身が職務で関わっていることを確認し改めて考えることができたのと同時に、今まで知らなかったことに触れられた、良い機会であったと思う。今回は様々な行事が重なっていたため仕方ないところもあるが、できれば高校生、西九州大学の学生、子育て世代など現役世代に参加していただきたいと感じた。今回のワークショップで市民協働の在り方が少し見えてきたので、計画策定後も継続して開催してほしい。

(事務局)

アンケートを現在集計しているため、次回提示する。第 1 回目の各地区からの参加者、および参加者の年代は以下の通りである。神埼地区：23 名、千代田地区：9 名、脊振地区：9 名。20代：6 名、30代：6 名、40代：7 名、50代：10 名、60代：5 名、70代以上：7 名

(委員)

市民ワークショップの広報について。3 回連続で参加しなければならないように見えたが、それで問題なかったか。参加人数は多いほど好ましいので、参加しやすさを重視して 1 回限りの参加も可という表現でもよかったのではないか。

(委員)

事務局に確認したところ、全 3 回すべてに参加するのが望ましいが、1 回だけでも可とのことであった。

(事務局)

積み上げ式でのワークショップ企画であったため、3 回通して参加をしていただきたいと思っていたが、1 回限りの参加でも、参加者からは楽しかったという感想をいただいたり、新しい出会いの良い機会になったようなので、スポット参加であっても意義があるようには感じた。今回の参加者数が妥当であったかは明確に言えないが、もっと参加していただけるような工夫をしてもよかったかもしれないという点は反省すべきところである。周知方法については今回のことを踏まえ今後活かしていきたい。

(2) 第 2 次神崎市総合計画～基本構想～ (案)

(委員)

市民ワークショップや職員、それらを積み上げて作成した事務局提案はすべて「幸せ」がキーワードであることは理解したが、幸せという言葉に具体的な意味を持たせるべきである。10 年後の神崎市がどう変わるのかを想像できる将来像であるべきと考える。また、市民ワークショップも事務局が用意した枠組みの中で考えるような形であったため、本当に「市民が考えた」と言えるのかは疑問である。

(事務局)

幸せの価値観はそれぞれ異なると思うが、大筋の「幸せ」という定義については基本構想、基本計画それぞれの中で抑える必要がある。ワークショップについての指摘部分はこちらも認識している。開催主体は市であったが、この先市民発動でどのようなアクションに繋がるかが重要であると考えている。今回は総合計画策定のために 3 回の開催で設定したが、継続したまちづくりの取組みにおいてはこのような機会が大切であると感じている。

(委員)

幸せは個人の価値観によるところも大きく、結果として行政としては様々な世代、様々な分野に対応しなければならないこともあり、難しい部分である。

(委員)

市民協働が本計画策定においても重要なキーワードであることは以前から認識していたが、市民も忙しい人が多く、また少子高齢化の進行により地区も疲弊しており、コミュニティの継続ためには小字をなくし大字ごとの地区へ再編する検討も必要で

はないかとも思う。そんな時代だからこそ具体的な「幸せとは何か」という議論が必要であり、今後人口が縮小しても良いまち・幸せなまちであると言えるまちづくりを目指さなければならない。人口が減れば何も無い、ということにはなってはならない。

(委員)

将来像は現行計画と変えなくてもいいと思う。市民が中心であり、人はキーワードとして入れるべき。人と人が支え合うという考えが必要ではないか。事務局案は抽象的なように感じる。オールかんざきの達成のためには財政的なやりくりだけではなく、市民協働は欠かせない要素である。

(委員)

国も官民協働というのは重要なキーワードとして各種取組みを行っている。自分が住んでいる区では区役の担い手がいないこと、子ども達は受けてきた教育を發揮する場が神崎市はもとより、佐賀市にないことが話題に挙がる。かつて、東京は出稼ぎに行く場所であったが、現在は金持ちがどんどん東京に流れているという仕組みができあがっている。結果として働く場所とそれに伴ってお金の流れも東京など都市に集中している。佐賀県内で、定住促進補助を行わずに人口増加が見られるのは鳥栖市くらいであるため、雇用を増やすために工場誘致を加速させるといったことを打ち出せば、若い人には神崎市が魅力的になるかもしれない。仕事があることは若者にとっては最も重要であるため、企業誘致が大事だと思う。なお、鳥栖市長から聞いた話によると、数千戸単位でアパートの空き家が生まれている。新しい住宅ができればそちらに移り、ということが繰り返されている状況だと聞いた。

(委員)

少子化というのは逃れられない事実であり、国全体に与える影響も甚大になる。国が打ち出している子育て支援の施策も、直接的な少子化解消になるわけではない。明るい未来を描くことが我々の役割であり、そうでない限りは子育てなどに若者が前向きになることは難しい。

(委員)

現在、地区で定年を迎えた人で法人をつくり、高菜と味噌を製造・販売するに至っている。高齢になっても楽しく働く場があるというモデルはすでに神崎市にあるということを知りたい。働きに出ている子供たちも休日は農作業を楽しんでやっている。

(委員)

農業も商業も、すべてまちづくりには必須の要素であると考えている。将来像について、事務局提案は神崎市の目指す姿としてよいと思うが、あとは絵に描いた餅にならないよう、どのように実現をするかが重要である。

(委員)

10年後の時代に合う言葉や物の考え方を描きながら、取組み方法を詰めていく必要がある。

(委員)

四年制大学と高校が2校ある神崎市は学園都市でもある。西九州大学との連携のほか、神埼清明高校は以前農業高校であり、加工品開発等も行っている。校外で大々的に販売してみるなど、特徴的な取組みをしてみるのはいかがでしょうか。

(事務局)

大学や高校との連携は庁内意見としても挙がっている。ただし連携とするのか交流とするのか、実施計画レベルにするのか等、盛り込み方は検討したい。

(委員)

西九州大学の生徒数はどのくらいか。市内の最大の企業であり、市民ワークショップでも大学と連携できないかという意見が多かった。

(委員)

学生で神崎市在住者は少ないが、理由はバイトする場所がないからである。近隣市町から学生が通学しやすいように駐車場を広くとっているということもある。来年4月には看護学部の1、2年生が神崎市に来るため、神崎市に住んでもらうような取組みもできるかと思う。1年生は神崎駅からスクールバスで通学する学生も多いため、神崎駅周辺が魅力的になれば、神崎市に住みたい学生が増えるのではないか。なお西九州大学は定員割れしている学部もあり、福祉系の中でも介護系は学生が来ないのが全国的な現状であるが、西九州大学のボランティア件数は年間3000件と非常に多いため、市や市民との連携等は歓迎できる土壌がある。

(事務局)

食育推進や健康づくりなど、市との連携はすでにくっついて進んでおり、ボランティアに関しては毎月第1土曜日に開催している櫛田の市には必ず10名ほどの学生が支援に来てくれている。ただ、地域での交流の中で、神崎市に住むという展開がまだ十分ではなく、そこを強化していくために大学と協議し、取組んでいるところである。

(委員)

個人的な意見だが、将来像は10年間で実現・改正できるようなものではないと考えている。将来像は100年先でも変わらないものであり、未来都市は少しおこがましいが、「自然と歴史と人が輝くまち 神崎市」でもいいのではないか。

(委員)

将来像は事務局案を提示されたが、本来は一から審議会で作っていくものではないのか。

(委員)

10年間でやっと将来像が定着したところではあると感じるが、現行の将来像の語感、堅く腑に落ちにくいのではないか。もう少し柔らかく表現していくほうが受け入れやすいと思う。

(委員)

今後10年間を見据えた将来像ということなら、人口減少をベースに考えるのがよいと思う。

(委員)

市民ワークショップや職員の意見からのキーワードが「幸せ」ということであれば、それを想像できる将来像であることは必要であると思う。ただし、10年ごとに将来

像を変更するのは継続したまちづくりを行うにあたって望ましくないのでは。

(委員)

今日決めるのではなく、もう少しじっくり時間をかけるべきではないか。

(事務局)

本日の審議会の意見を踏まえ、次回再度審議したいと思う。ただし、それまでの期間に基本構想案と基本計画案の策定作業を進めていくことについては留意いただきたい。

(委員)

事務局案について。「時代」を越えてとあるが、「世代」ではないのか。

(事務局)

再審議に向けて見直しをさせていただきたい。本案については、歴史ある神崎市において、という点から検討したため「時代」を採用した。

4. その他

(事務局)

次回審議会は12月25日(月)14:00に開催する。

(委員)

将来像の根幹について意見を出すために、ワークショップ形式で意見交換を行ってはどうか。

5. 閉会

(以上)